

令和6年度 第1回 湖南広域休日急病診療所運営委員会議事録		
日 時	令和6年7月24日(水) 14時00分～15時07分	
会 場	湖南広域行政組合総合庁舎3階 市民防災ホール	
出席者	委員	草津栗東医師会 新木委員 草津栗東医師会 白波瀬委員 守山野洲医師会 小西委員 守山野洲医師会 松川委員 守山野洲薬剤師会 間下委員 済生会滋賀県病院 越後委員 淡海医療センター 藤井委員 済生会守山市民病院 野々村委員 県立総合病院 野澤委員 草津保健所 川上委員 草津市民代表 谷村委員 守山市民代表 田中委員 野洲市民代表 平田委員
	事務局	草津市 井上課長 守山市 川上次長 野洲市 高田課長 湖南広域行政組合 西出総務部長 救急医療事務局 角事務局長 白井主査 加藤主任 辻副主任 オブザーバー 湖南広域消防局 藤江救命救急課長
会議資料	別添のとおり	

1. 開 会

角事務局長進行

新木診療所管理者挨拶

角事務局長

運営委員会規則第4条第2項の規定により、半数以上の委員の出席により会議の成立を報告

2. 委員及び事務局の紹介

事務局から委員および事務局等を紹介

3. 議 事

委員長が議長として議事進行

議事（1）令和5年度湖南広域休日急病診療所の診療実績について

○委員長

本日の運営委員会の円滑な議事進行につきまして、委員の皆様方の御協力をよろしくお願い致します。では議事に入る前ではございますが、当委員会で発言された内容は、発言者や個人情報を除きまして、後日、組合のホームページに概要が掲出されますので、御了承いただきたいと思います。

それでは、初めに議事（1）令和5年度湖南広域休日急病診療所の運営実績等について、事務局より説明お願いいたします。

○事務局長

令和5年度湖南広域休日急病診療所運営実績として、令和5年度中の診療実績と令和5年度休日急病診療所特別会計歳入歳出決算概要について、合わせて資料に基づき説明。

○委員長

ありがとうございました。それではただ今の令和5年度運営実績およ

び令和5年度救急医療特別会計決算概要について、ご質問、ご発言がありますでしょうか。

診療実績としては、年々患者数は増えていっている状況になってきていまして、コロナ前の状況に徐々に近づいているような状況のようです。

○A委員

守山市民代表の委員でございます。初めてこの会議に出席させていただきます。感謝とお礼を申し上げておきたいと思っております。両医師会の先生方はじめ、休日急病診療所に従事していただいております先生方、また本日お集りの委員の皆様のご尽力によりまして、管内34万余の市民が安心して休日も日々生活が送られていますことに対しまして感謝とお礼を申し上げておきたいと思っております。ありがとうございます。引き続きましてご支援よろしくお願ひしたいと思います。

一点質問ですが、受診者数の推移で全体的に令和5年度につきましては、前年度の約1.4倍に増加していますが、これは自然的に増加しているのか、何か他に要因があって増加しているのか、事務局で分析されていると思っておりますがその点についてお伺ひします。

○事務局長

患者数につきましては、約1.4倍の増加になっており、年々増加しているところです。新型コロナウイルス感染症が始まる前は年間1万人前後で推移していました。同感染症が感染拡大した際には一旦患者数は激減したのですが、段々と徐々に回復をしている状況です。

○委員長

コロナ前の状況が正常な状態の人数であったかと言うと、少し過剰に受診されているところもあったのかも知れないのですが、1万人近くの受診者数がありました。コロナの際には受診控えの状況が起こり、それで急激に受診者数が減って、また徐々に戻ってきているという状況となっています。想定としましてはおそらく今年度に関しては増えてくるような流れになるのではないかとこのころです。

○B委員

コロナ患者の方が増えている、そういう意味ですね、全体として増えている原因はそういうことではないのですか。

○事務局長

コロナ感染者を含む発熱患者が全体的に増えており、その中にはインフルエンザ患者も含まれていますし、全体的に発熱患者が増えている状況です。

○B委員

必ずしもコロナの患者が増えているという訳ではないということですか。

○事務局長

そのようにご理解いただければと思います。

議事（2）令和6年度湖南広域休日急病診療所特別会計歳入歳出予算について

○委員長

それでは続きまして次の議事に移らせていただきます。議事（2）令和6年度湖南広域休日急病診療所特別会計歳入歳出予算について、事務局より説明をお願いします。

○事務局長

議事（2）令和6年度湖南広域休日急病診療所特別会計歳入歳出予算

について、資料に基づき説明。

○委員長

ただ今の説明に関しまして何かご質問等はございますでしょうか。

○C委員

休日急病診療所は、マイナンバーカード受付の機器は設置されていますか。

○事務局長

受付に設置しており、稼働させています。

○委員長

12月から健康保険証が発行されなくなるということですので、マイナンバーカードで受付できる体制が整備されています。

○委員長

他いかがでしょうか。

使用料及び賃借料の予算の説明欄に仮設診察室他と記載されていますが、仮設診察室は既に撤去してあるのですね。

○事務局長

仮設診察室につきましては、6月17日、19日の2日間で既に撤去済でございます。こちらにつきましては、7月から11月までの5か月分についての月々132,000円のリース料を11月の議会において減額補正を行う予定でございます。

○D委員

休日急病診療所管理運営経費負担金の額が少なくなった理由は理解できましたが、負担割合の内訳はどのようになっているのでしょうか。

○事務局長

休日急病診療所管理運営経費負担金、53,033,000円の内訳ですが、草津市が16,570,000円、守山市が13,853,000円、栗東市が13,745,000円、野洲市が8,865,000円となっています。負担割合については均等割30%、利用者割70%となっています。

議事（3）令和6年度湖南広域休日急病診療所の診療体制について

○委員長

それでは、次の議事に進めてまいります。

議事（3）令和6年度湖南広域休日急病診療所の診療体制について、事務局より説明をお願いします。

○事務局長

議事（3）令和6年度湖南広域休日急病診療所の診療体制について、資料に基づき説明。

○委員長

ただ今の説明に関しまして、何かご質問はございますでしょうか。

○A委員

年々自然増で休日急病診療所の患者数が増加しているということですが、その中で令和6年度は6,480人を想定されているのですが、この数値には何か根拠があると思うのですが、教えていただけますか。

○事務局長

6,480人の内訳といたしまして、1診療日当たりの平均受診者数を約90人と見込み、診療日数72日を掛けた数値となっています。

○A委員

年々増加している傾向と説明されていましたが、それに対して前年度

から想定患者数を減らしているというところが理解できないのですが、教えていただけますでしょうか。

○事務局長

前年度につきましては、平均しますと1診療日当たり約92人になっているのですが、こちらについては、特に新型コロナと季節性のインフルエンザこれらの流行等によって患者数が増加したり減少したりする中で、なかなか患者数を読めないところがございます。こうした状況の中で今年度は90人を想定させていただいたものです。昨年度につきましても当初の想定患者数は、そこまで見込んでいみせんでしたが実際には患者数が増加しました。このことから、想定患者数を予測するのは難しいところがありますので、今年度の想定患者数は昨年度の実質患者数を参考に計算させていただいたものです。

○委員長

実際には増加するかどうか分からないところがありますし、増えると見込んで歳入を多く見積もる計算の仕方にも問題がありますので、昨年度の実質患者数と同等程度ということで予算組みをしていくということになるかと思えます。

○B委員

一般的な話なのか分かりませんが、救急隊員がコンビニに立ち寄っても構わないということになったといったニュースを見かけたのですが、それは湖南広域行政組合の救急体制でも同じなのですか。

○事務局長

現在当消防局としまして、熱中症予防を含めコンビニに立ち寄ってもよいという通達は出ていません。ですから、出動事案が終了したら一旦消防署に帰り、隊員の交代等を行い、災害対応をしているところです。大都市では徐々に取り入れておられ、当消防局におきましてもそういった課題に直面してきていると思えます。

○B委員

そういった課題が出てくるのは、結局軽微な救急患者の救急車利用が増加してきていることから出てきた話と聞いています。

○事務局長

実際には、救急要請され現場に到着するまで軽症であるかどうかについて判断ができないところもあります。救急隊が患者観察した結果、傷病程度の判断をすることもなかなか難しいところがある中で病院に搬送し、結果的に軽症であったということもあります。救急要請される方は、皆さんが重症であると判断され要請されているという認識で救急隊も活動していますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

○委員長

全国的にも軽症の方が救急車を要請することが問題視されているところもあって、そのために重症患者の搬送が遅れるといった事態も起こってきています。一部の自治体では救急車要請に料金が発生しますというようなことをせざるを得ないところが出てきています。当地域についてはまだそこまでの状況ではないということですが、切迫しているのではないかと思えます。その点は休日急病診療所においても同じような現象が起こってきていると思えます。やはりコンビニ受診という表現がいいのか分かりませんが、そこまで切迫していないというか、様子を見てもいいのではないかという状態の人であっても受診されるケースは出てきています。そういった事も含めて患者数が増えてくる。決して病気になられる患者数が年々増えているかというところとそうでもないと思えます。

救急車の要請であるとか、休日急病診療所の受診者の数が増えていくのはやはり、それまでよりも軽い症状なり心配だということでも受診されることからどうしても受診者が増えてくる流れになるのではないかと思います。

○委員長

今年度の年末年始に関しましては、前年度の年末年始が特に内科の患者が増えまして医師の対応が追い付かない状況が発生しましたので、今年度に関しましては内科の医師を1人増やす人員配置にしています。この体制でも、その時点で新型コロナなりインフルエンザなりの感染流行状況がどのようになっているかによって患者の数は変わってきます。昨年度はなぜか小児科患者の数に比べて、内科患者の数が多岐な状況がみられました。これが逆になることもございますし、どこがインフルエンザ等の流行のピークになるかによっても変わってくるかと思っております。とりあえず今年度の診療体制はこの形でやっていくこととなりますのでよろしく申し上げます。

議事（4）仮設診察室の解体撤去について

○委員長

それでは次に進めてまいります。

議事（4）仮設診察室の解体撤去について、事務局から説明をお願いします。

○事務局長

議事（4）仮設診察室の解体撤去について、資料に基づき説明。

○委員長

ありがとうございました。ただ今の説明で、ご質問がありますでしょうか。

○E委員

新型コロナウイルス感染症が5類になり、感染の今後の状況にもよりますが、診察の動線については今後変わってくるのでしょうか。

○委員長

現時点では患者さんの動線に関しましては、診療所診察室に入ってきて、診察が終わったら診療所から出ていくという形になっています。問題となるのはやはり、待合においてたくさんの患者さんが待っていることによって感染が広がることの方が問題になると思われますので、診察を待っている患者さんは、仮設診察室で診察していた時と同じく外で待っていただく形になっています。ですので、患者さんは診察時に入って、診察が終われば出ていくという形になっています。現時点では抗原検査をしていませんので、そういった意味では今の形で問題なく出来ています。また、年末年始には抗原検査をせざるを得ない状況が出てくると思いますので、その際には検査をどこの場所で行うのか、どういう動線で実施するのかということを検討するということになっています。

○E委員

全員が同じ動線で行っているということですか。

○委員長

その形で診療しています。その形で現在のところ問題なく診療できていると理解しています。

今、一般の診療所においても、コロナが5類になりしばらくたって、

ある程度期間も経ちました、患者さんの意識もある程度落ち着いてきた状況になってきましたので、通常通りに診察室に入って、診察後に出て行ってもらうような形の診察方法に大体のところの診療所もなってきていると思います。以前のように全く別のところでの診察や車で診察をするようなことはされていない状況になってきていると思います。

議事（５）令和６年度湖南広域休日急病診療所の診療状況について

○委員長

それでは次に進めてまいります。

議事（５）令和６年度湖南広域休日急病診療所の診療状況について、事務局から説明をお願いします。

○事務局長

議事（５）令和６年度湖南広域休日急病診療所の診療状況について、資料に基づき説明。

○委員長

ありがとうございました。ただ今の説明で、ご質問がありますでしょうか。

○委員長

受診患者数に関しては、４月から７月の期間については昨年度とほぼ同様の患者数という形になっている状況ですので、予算のところでご質問いただいた件もご理解いただけたのではないかと思います。

○委員長

他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ご質問もないようですので、これで本日の議事は終了となります。続きまして、次第５その他について事務局から何かございますでしょうか。

○事務局長

事務局からは特にございません。

○委員長

それでは、全体を通してですけれども会場の委員の皆様から何かご意見とか改めてのご質問とかございますでしょうか、いかがでしょうか。

○A委員

運営委員会の運営に関しては、我々市民代表として参加させていただいておりますが、休日急病診療所を実際に利用された方の生の声、そうした声を、例えばアンケートとか意見箱とかの方法で収集されていますか。

○事務局長

そのようなアンケート等は取っておりません。

○A委員

運営に関して参考になる意見もあろうかと思えますし、もちろん感謝の声も多くあると思うのですが、できたらご検討いただけたらと思います。

○委員長

ありがとうございます。なかなか急に具合が悪くなって診療所に来られた方、その一度きりの方々に、ご意見をいただくというのは、また別の方法で取りよせていただくなどの形をとらないと難しいように思います。

○B委員

休日急病診療所に来られている方にアンケートを取るといのはなかなか難しいのではないかと思います。

○委員長

診療所に来られている方に、その場でご意見をお伺いするのは難しいと思いますが、何らかのご意見とか、苦情の方になってしまうかもしれませんが、何らかの形で市民の皆さんの広いご意見が入ってくるような状況というのも考えていったほうがいいのかと思います。

○委員長

他ございませんでしょうか。では無いようですので、本日予定されておりました議事の全てを終了いたします。

皆様のご協力によりまして議長の大役を務めさせていただくことができましたこと、厚くお礼申し上げます。これで議長を終えさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局長

新木先生、ありがとうございました。
それでは閉会にあたりまして、小西副委員長から閉会の御挨拶をいただきたいと思います。

○副委員長

守山野洲医師会の小西でございます。今年度から年末年始の医師の体制を少し増やすということで各医師会の先生方をお願いしたところ快く引き受けていただいて、守山野洲医師会でも1人増やして診療に携わるということにさせていただきました。先ほど委員長もお話しされていましたが、コロナも徐々に増えてきていますし、熱中症で救急搬送される患者さんもおられるということをよく聞きます。どちらもやはり予防が基本となりますので、市民の皆様方には予防に徹していただいて、できるだけ罹らずに済むようにしていただきたいと思います。もし罹った場合は適切な治療を受けていただきますように、まずは罹らない努力をしていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

○事務局長

副委員長、ありがとうございました。
これを持ちまして、令和6年度第1回湖南広域休日急病診療所運営委員会を終了させていただきます。